

応用部会の活動報告

1．応用部会の目的と活動方針

各部会の検討のなかから出てくる成果を、より具体の技術や施策に展開するための取り組みを行う。また、部会横断的なテーマをとりまとめて、集中的・効果的に推進することをねらいとする。そのために、提案・抽出された課題毎に小委員会を構成して進める。

2．平成20年度の活動の概要

部会のもとに5つの小委員会を設置して進めた。学習小委員会は前年度よりの継続であるが、残る4小委員会は21年度当初ないしは中途から新規に発足した。

(1) SAP小委員会（委員長：川瀬貴晴千葉大学大学院教授）

知的生産性評価のための主観評価票（SAP：Subjective Assessment of workplace Productivity）を Web 対応させて、インターネット上でデータ収集出来る体制を整え試行した。本小委員会は、環境・設備部会の活動の一環として実施した。

(2) 学習環境小委員会（委員長：伊東一秀九州大学准教授）

学習環境が学習効率に与える影響の客観的、主観的な評価手法の標準化を目的として、既存データの整理や実態把握の調査を行うものであり、今年度は調査対象年齢を下げ、高専年齢レベルにおける学習効率測定を実施した。

(3) CASBEE対応小委員会（委員長：伊香賀俊治慶応大学理工学部教授）

CASBEEに知的生産性評価の考え方を反映することを視野に、CASBEEの評価体系に合致した数値指標の開発、ならびに経済性評価手法等を検討した。本小委員会は、経済性評価と格付け部会の活動の一環として実施した。

(4) 医療環境小委員会（委員長：中山茂樹千葉大学大学院教授）

医療の生産性向上を目指し、医療環境の適正化を図ることをねらいとして、医療現場における建築・空間環境と医療作業性の関連等の把握を目的とする。基本的な方向性を検討し、具体の医療現場（病院等）での調査を企画立案し、一部実施した。

(5) フリーアドレスオフィス調査小委員会（委員長：宗本順三京都大学大学院教授）

フリーアドレスオフィスにおけるワーカーの行動調査等を行い、知的生産活動とフリーアドレスオフィスの関係性を明らかにすることを目的とするもので、建築空間部会の活動の一環として検討を開始した。

3．今後の活動

(1) 小委員会活動

5小委員会の活動を継続すると共に、課題に応じて小委員会等の立ち上げを検討する。

応用部会 部会長：坊 垣 和 明（武蔵工業大学）

応用部会 CASBEE 対応小委員会の活動報告

1. CASBEE 対応小委員会の目的と活動方針

1.1 小委員会の目的

本小委員会は、建築物総合環境性能評価システム（CASBEE）の評価の枠組みを活用した知的生産性評価の可能性について検討すると共に、知的生産性評価の視点によるCASBEE側への提案についても併せて検討し、すでに社会的に普及をみているCASBEEによる知的生産性評価の普及を推進することを目的としている。

1.2 研究内容

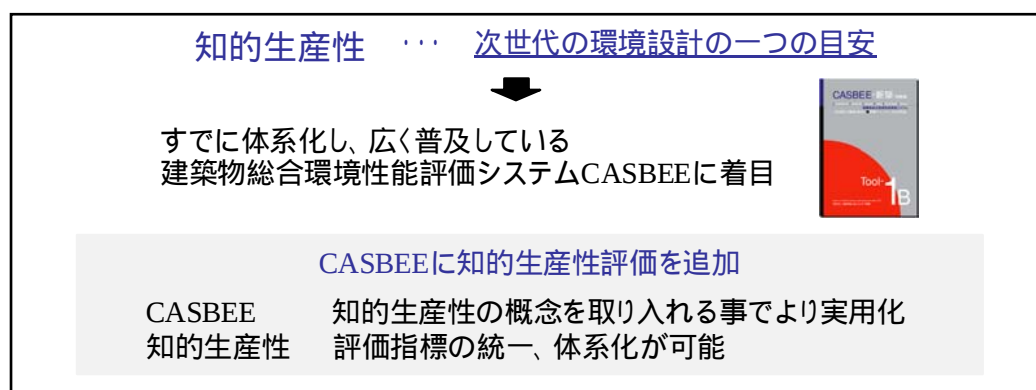
- (1)CASBEE の評価体系を活用した知的生産性評価の方法について検討を行う。
- (2)CASBEE における Q1:室内環境、Q2：サービス性能、Q3：屋外環境の各評価基準への知的生産性評価の反映方法を検討する。

1.3 方法

- (1)具体的な活動は「経済性と評価/格付」部会と協働で行い、より詳細な検討が必要な作業に関して、本小委員会が担当する。
- (2)CASBEE 評価と物理環境、さらに個人の作業効率への影響度合いなどを実測やアンケート調査により行い、CASBEE 評価項目の知的生産性評価への寄与度などを同定する。第一段階として、空気室環境の改善前後による物理環境計測、アンケートによる主観評価などを行う。

1.4 アウトカム

- (1)個々人の知的生産性評価の CASBEE への反映方法の提案
- (2)実測・アンケートによる空気質環境（CASBEE 評価結果）と知的生産性の相関分析



応用部会 CASBEE 対応小委員会 委員長：伊 香 賀 俊 治（慶應義塾大学）

応用部会 フリーアドレスオフィス小委員会の活動報告

1. フリーアドレスオフィス調査小委員会の目的と活動方針

1.1 小委員会の目的

フリーアドレスオフィスにおける知的生産性を研究する。フリーアドレスオフィスにおけるワーカーの行動を調査し、「建築空間と知的活動の階層モデル」に基づいて、知的生産活動とフリーアドレスオフィスの空間構成との関係を明らかにすることが目的である。

1.2 研究内容

- (1) フリーアドレスオフィスの国内外の先進的事例と、関連研究の調査を行う。
- (2) フリーアドレスの実可動オフィスを対象にワーカーの行動調査を行う。
- (3) 固定席の実可動オフィスを対象にワーカーの行動調査を行う。
- (4) フリーアドレスオフィスと固定席オフィスの調査結果を比較分析する。
- (5) 知的生産性を向上させるフリーアドレスオフィスの空間要件を明らかにする。

1.3 方法

- (1) 文献調査と実地調査により、フリーアドレスオフィスの事例や関連研究を把握する。
- (2) 実可動フリーアドレスオフィスにおいて、主観評価によるPOE調査を行う。
- (3) フリーアドレスオフィス及び固定席オフィスにおいて、ワーカーの行動を観察調査する。
- (4) フリーアドレスオフィス及び固定席オフィスにおいて、ワーカーの行動をセンサーネットワークにより計測する。
- (5) 計測データをデータベース化し、統計的手法等による分析を行う。

1.4 アウトカム

- (1) フリーアドレスオフィスに対するワーカーの主観が明らかになる。
- (2) フリーアドレスオフィスにおけるワーカーの行動が計測される。
- (3) 固定席オフィスとの比較によりフリーアドレスオフィスの利点と欠点が明らかになる。
- (4) 知的生産性を向上させるフリーアドレスオフィスの空間要件が明らかになる。

応用部会 フリーアドレスオフィス小委員会 委員長：宗 本 順 三（京都大学）